

会長あいさつ 上田市都市建設部部長 清水会長 (以下 清水会長)

変更委員紹介 しなの鉄道(株) 経営企画課長 岩下秀樹  
上田警察署長 久保田久義  
上田市自治会連合会 上田地域代表 林 次信  
上田市自治会連合会 丸子地域代表 小澤 厚  
上田市自治会連合会 真田地域代表 横沢憲治  
上田市自治会連合会 武石地域代表 児玉卓文

資料確認 藤澤課長

## 議題

### (1) 上田市公共交通活性化協議会協議事項について

#### ア 上田市運賃低減バス運行計画(案)について

事務局 資料1～3 資料説明

#### 質疑等

上田市自治会連合会(真田地域代表) 横沢委員(以下 横沢委員)

真田地域に新規路線「御屋敷公園線(仮称)」を設けるとのことだが、利用対象としてどのような人を考えているか。

#### 事務局

御屋敷公園線(仮称)のルートは公共交通空白地帯解消を目的としたルートであり、自治会としては十輪寺、赤井、竹室、(小玉)上郷沢辺りを利用対象としている。

#### 横沢委員

路線ができ、料金も安くなることはありがたいが、現実的には利用できない。例えば高速バスで上田菅平ICから佐久総合病院に行く場合、(路線バスを乗り継いででは)高速バスのバス停まで(距離があり)行けない。また(高速バス乗り継ぎに路線バスダイヤが対応しておらず)使い勝手が良くない。うまく乗れて高速バスに乗れるというところまで考えてほしい。

#### 事務局

(路線バスは)JR、しなの鉄道への乗り継ぎに配慮したダイヤになっている。(その中で)利便性が良くなるよう考えていきたい。

清水会長

千曲バスの高速バス、(上田バスの)住吉停留所で乗り換えると臼田(佐久総合病院)まで行ける。ダイヤをチェックして可能であれば利用できるようにしたい。

豊殿地域循環バス運営委員会 委員長 神林委員(以下、神林委員)

今回の(運賃低減バス)試案(について)利用者を増やすことはいいことである。利用しやすくなることで、通勤・通学利用者も増える。マイカー利用からバス利用へ、また(安全な通学の観点から)自転車利用からバス利用への転換も学校にもPRしながら運行をしていくのは良いと思う。ただ、3月9日付け信毎紙上にあったタクシー業者(の経営)が心配である。(当地域では家から)バス停まで離れていて大変な地域内交通弱者のため、タクシー業者にお願いして豊殿地域循環バスを委託運行しているのであるが、(運賃低減バスについて)タクシーが反対してる意味合いが理解できない。バス・鉄道・タクシーがともに発展することが公共交通発展につながり、住民のためになる(と考えている)。

長野県タクシー協会上小支部 飯島委員(以下、飯島委員)

(上田市の)公共交通機関は、鉄道・バス・タクシーで構成されている。(昨今の)不況が長期化している今、いずれの公共交通機関の利用も減少していて、タクシーについても同様である(平成13年から平成23年度の10年間で、長野県のタクシー利用は約724万台/年 約33%減少している。上田市のタクシー利用については平成13年を100とすると平成23年は69になっている)

バスは利用者がバス停(に行きそこ)から乗車するのに対し、タクシーはドア・ツー・ドアの乗車であり、利用者は料金やその他の条件で利用を選択する。(今回の低減バスの)料金体系では、(上田駅から菅平への利用を例に挙げ)選択肢が奪われる(あまりにも料金が安くなるため、タクシーからバスへ転換する選択肢が拡大する)。さらに上田市全域での実施となればタクシー業の経営維持が困難となり、(多くが上田市民である)乗務員(労働者)にも影響を与える。(この施策について)御一考願いたい。

長野県タクシー協会上小支部 中島委員(以下、中島委員)

18路線全てで(バスの運賃低減)するのが問題である。(飯島委員の言うとおりの)選択肢がなくなる(料金の高いタクシー利用という選択の余地がなくなる)。(現行のバス運賃なら考えられたタクシーの)割り勘(利用)というのもなくなくなる。これ以上(タクシーの)大幅需要減になると(タクシーの)経営が成り立たなくなり、(その結果)タクシー車両の供給不足となって、最終的には不便になる(上田市民の不利益になる)。H23年 タクシー利用(約61万人)とバス利用(約100万人)の比率は4:6。バスだけという(市の)施策は(公共交通機関全体の利用促進というのと)矛盾を感じる。モータリゼーション化、少子高齢化のなかで(バスの)運賃低減だけで利用が増えるのか。(公共交通機関の間で)利用者の奪い合いになり、最終的には市民が不便になるのでは(ないかと考える)

事務局

(運賃低減バス施策は)公共交通機関利用促進の一環で、(利用の)活性化を目指すもので今回はバスについて行っていくというものである。(バスに)乗れる環境にありながら利用していない人にかかに乗

ってもらうかが大事。利用されない人への利用促進であり、利用者の奪い合いではない。新たな利用者の掘り起しである。また、具体的なものではないが観光を含めたタクシーとの連携を考えている。(今回の施策に) ご理解願いたい。

#### 清水会長

バス停から乗れるのに乗っていない(人が多い)のが現状。親の送迎や親の通勤に合わせて通学する高校生(が多いの)は、定期代が高いと言うのも(バスに乗らない)一因である。安心して学校へ送り出せるかを考えた上での施策。バスが行かないところやバス運行していない時間などはタクシーの利用になるのだから必ずしもタクシーからバスへの転換につながるとは一概には言えない。(目標にも掲げた)1ヶ月に1回(バスに)乗ってもらうことで(バスに対する)市の補助が下がるので、是非やっていきたい。また、市として一部のみ運賃低減と言うのは(公平性の面で)難しい。インパクトのある形で、バスが便利になったと言う形で(全市で施策を)実施したい。

上田市の観光はリーディング産業。訪れる人も増えているので、それを活かす。観光部局と連携していくことも考えている。タクシー利用は(料金がいくらかかるか)分からないところがある。定額制を取っている観光タクシーもある。ドア・ツー・ドア、夜間(深夜)の運行、面的サービスといったタクシーの優位性を活かして考えていければと思っている。

#### 飯島委員

定額タクシーについては、既に県の観光ガイドタクシーで取り入れている。そのほかにもアテンダントを(駅温泉口に)置いたりといったこと(観光客のためのサービス)も行っている。赤字を出せば経営者としては立て直すのは当然である。(先ほど話の出た)バスの行かない地域(不便地域)にタクシーの利用助成(地域振興券のようなもの)を出し、乗る人に援助するといったことはどうか。高齢者・中山間地での(バスを利用できない方の)運送を(福祉を含めて)総合的に行政で(バスに合わせ)早急にやっていただきたい。

#### 清水会長

この話についてはここでどうこう言えない。検討させていただきたい。市としては公共交通全体のPRを、やり方はこれから連携して検討していければと考えている。

#### 神林委員

目標の1.5倍は(朝夕の利用はともかく)昼間の利用は確保できるのか。バス会社の考え方を聞かせてほしい。

#### 上田バス(株)舟見委員(以下、舟見委員)

運賃については、近いところは(ほとんど)変更はない。遠い地域の(特に)高校生の負担が軽減されるので、朝夕の利用は増えると思う。昼間はどのくらい乗るのかは分からないが、3年間で利用者1.5倍増を目標に安全運行、よりよいサービスに努めたいのでさらに利用促進を進めていきたい。

千曲バス（株）三浦委員（以下、三浦委員）

路線バスのメインとしているところの潜在需要（主に高校生）の掘り起こしをし、その後社会人になっても継続してバスを利用してもらいバス路線を維持していきたいと思い、市と一緒にこの施策を出させていただいた。（市内を走る路線バス）4社で進んでいきたい。

JRバス関東（株）小諸支社 名和委員（以下、名和委員）

私ども（の長久保線）は自主運行路線。（上田駅から）丸子までは千曲バスと一緒に（のルート）である。まだ（市の施策に対しては）賛成の形をとっていない。長和町も路線が走っており、山間部利用者が（この施策で）増えるとは思えない。年々利用者の高齢化が進んでいる。これまでも親の送迎の高校生のために片道（のみの）定期券を発行したりと、利用者を増やすことを何年も前からしてきているが、市を超える路線（市外を跨る路線）にメリットはない。利用者に（安く乗れるような）乗り方を換えられる懸念がある。それ（運賃低減による減収）を補うだけの利用者増は見込めない。協力は検討しているが難しい。1.5倍（増）は夢の話だ。

清水会長

定住自立圏構想を進める中で、（検討項目が）いろいろあるが、今はその中に公共交通機関についてはない。今後そういうところも考えていかなければならないと思っているが、今回は上田市だけでお願いしたい。全国での運賃低減バスの事例説明を事務局からお願いしたい。

事務局

京丹後市（京都府）で平成18年4月から運賃200円バス（上限200円）を実施している。利用者数は平成17年度17万人から平成23年度36万人と、約2.6倍増えている。200円バスを始めたきっかけは高校生を送迎する親の車で起きた交通渋滞。そこで、市の職員、高校、高齢者と市全体でバス利用するように取り組んだ。上田市もこの機運を目指していきたい。（上田市は）バスに乗れるのに乗っていない人が多い。これらの人をバス利用にシフトしていきたい。これ（運賃低減バス施策）は一步。施策の狙いは、（今公共交通に乗っていない人を）いかに公共交通にシフトさせるかがポイントである。総合的な利用促進の一步であり、タクシーの乗客増にもつながる（と見込んでいる）。東塩田線（仮称）もバス利用とともに鉄道にも乗ってもらうための施策である。

清水会長

事務局で挙げた（京丹後市の）ほかにも八戸市も似たようなことを行っている。こちらは（市内だけでなく）広域圏でやっているが（利用者は）増えている。上田市はこれらの先進事例を参考にしながら今回のもの（運賃上限等）に決めた。（実証運行）1年目からの利用者増は難しい。その場合（増加しなかった場合は）（減収に対する）補てんはあるが、出来るだけないようにやっていきたい。（今ある買い物や飲酒の方へのバス・電車利用割引などと合わせて）。学校の立場からの意見はどうか？

上小高等学校長会 窪田委員（以下、窪田委員）

私の学校（上田東高）では、現在1,040人中、78人がバスを利用している。親の送迎による通学が多

いことについては（バス利用の）PRが必要かと思う。これまで各学校でバス利用促進はしていない。校長会、生活指導等で（利用促進）していくことで利用増はしていかなければ（と思う）。（今日の会議で）学校が（バス利用促進に）力を入れていかなければと改めて感じた。

#### 清水会長

周知が重要である。一番は親に知ってもらい、子供に乗ってもらえればと思う。その時はご協力お願いしたい。現在、上田市の各地域で説明しているところである。事務局から説明をお願いしたい。

#### 事務局

（上田市内9地域での説明は）3月15日から始めている。これまで5地域、今週中に残り4地域への説明も終わる。地域への説明は（今日の説明で使った上田市全体版の資料でなく）各地域ごとの資料で行っている。（これまで行った説明会の中で）高校生の送迎をしている親から（運賃低減バスは）ありがたいという言葉をいただいている。今回、大幅なダイヤ改正（増便）はしていない。この中で「もっと増便してほしい」という意見も出されていた。長距離の運賃が安くなっているので（バス利用促進を）進めてもらいたいという意見もいただいている。

#### 国土交通省北陸信越運輸局 幸委員代理 蝶名林氏（以下、蝶名林代理）

他市から（上田市へ）入るとバス運賃が跳ね上がる。他市から乗入れている利用者は多いと思う。広域との連携を考えているとのことだが、広域（隣接市町村）での検討をお願いしたい。

#### 国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局 原委員代理 長谷川氏（以下、長谷川代理）

運賃が安くなればバス利用者は増えるのか。利用者1.5倍増は大変なこと。ターゲットは親の送迎（の高校生）だそうだが、運賃が高いからだけが乗らない理由と考えているのか。事務局の（この施策に対する）意気込みは分かるが、（利用者増加には）学校関係と連携していかなければいけない。もし（この施策によって）利用者が乗らなかった場合は誰が（減収分を）負担するのか。そういうところを踏まえて、そこまでつながるような取り組みをしなければなかなかうまくいかないと思っている。

#### 長野県企画部交通政策課 堀田委員代理 田川氏（以下、田川代理）

バス運賃は元々バス会社が安全かつ継続的な運行の観点から決めるものである。（施策後）仮に減収の場合は市が（減収分を）負担すると聞いている。安全かつ継続的な運行の観点では上田市のバス運賃低減施策が、周り（の市町村）にも波及しかねない。バス存続のための利用者の適正負担について今一度考えてもらいたい。鹿教湯線、菅平線（の割引率）はインパクト与えるものと見えるが、利用者3年間で1.5倍増えたとしても、（以前の市の説明で）市負担は減らないというシュミレーションであったと思う。インパクトも必要だが低減について路線ごとに今一度検討してもらいたい。（先ほど紹介のあった）京丹後市は徹底した利用促進があった（から成功した）。どのように利用促進をするのか具体的に示していただければと思う。

清水会長

市外を跨る路線については（料金が急激に上がることについて）運賃の仕組みをPRしていかなければならない。将来に路線バスを残していなければならない。市内路線バスはほとんど（運行に対して）補助していかないと運行が出来ない（状態）。何とか継続して乗ってもらい維持していく。今、1億の補助、低減化しても何年かは負担は増える。同じ市の負担なら、多くの人に乘ってもらい公共交通の便利さを享受してもらいたい。市の職員、事業所、地域で、今まで以上に利用促進を進めるよう、国・県からのアドバイスを受けながら考えていきたい。

名和委員

私どもは（市の施策に）全く反対しているわけではない。市職員全員がマイカー通勤をしない（でバス利用促進に努めるという）くらいの意見を出してほしかった。

神林委員

今回の考え方だが、今はマイカー時代で公共交通に関心ない（人が多い）。バス運賃を下げて関心を持ってもらうことは重要である。また自転車の危険面（安全面）からバス利用に関心を持ってもらうのも重要である。バスの片道乗車券はいい発想。親の関心を持ってもらうには重要なこと。バス利用の安全面を認識してもらうことは（運賃低減バス施策を）やっていくと状況変わっていくと思う。

上田市自治会連合会（武石地区代表） 児玉委員（以下、児玉委員）

京丹後市でのタクシーの状況をお聞かせ願いたい。

清水会長

（京丹後市の職員の説明では）（事前に）個別にタクシー会社に200円バスについて説明した。実施後も大きな反対はなかったと聞いている。利用促進のPRも一緒にやった（とのこと）。（終バス後の乗合いタクシーのPR。）今は、タクシー会社が自主的に（乗合いタクシーを）やっている。

八戸市も特に反対はなかったと聞いている。新幹線開業後はエージェントと連携した観光タクシーをPRしてきた。

事務局

八戸市は実証運行の2年間は（深夜の）乗合いタクシー、その後は4社で自主的に行っている。

清水会長

次回、5月の会議まで2ヶ月ある。それまでに調整が必要になる。委員の皆様におかれましてもご意見お寄せいただければと思う。

(2) その他

飯島委員

規約の中に分科会と言うのがある。分科会による審議を申し上げたい。

清水会長

個別に協議させていただきたい。

昨夏実施した「キッズパス」についての結果報告を事務局からお願いしたい。

事務局

H24年7月24日から8月21日まで（30日間） 小学生以下 市内バス運賃無料

「夏休み キッズパス」

2,616人の利用（正確な数字はないが、通常の3倍の利用）。子供からは、路線バスの利用は初めてで、乗り方も知らなかったという意見があった。親からは、子供と一緒にバスに乗ったことは路線バスを知るいい機会になったとの意見があった。

清水会長

この結果については、次回の会議で資料で提示する。キッズパスと共に運賃低減バスもPRしながら進めていければと考えている。